

第 3 会 場

Ⅲ—1 第 5 期国定教科書『コトバノオケイコ』の考察

—その書写教科書的側面—

都留文科大学 鈴木慶子

国定第 5 期の国語教科書は、第 1 学年用に『ヨミカタ』と『コトバノオケイコ』が、第 2 学年用に『よみかた』と『ことばのおけいこ』のそれぞれ 2 冊ずつが用意された。当時の図書監修官によれば、『ヨミカタ』は従来の読本と呼ばれるものであり、これを中心にして綴り方・書き方・話し方などに発展させようとし、それを実施するためには国語の練習書『コトバノオケイコ』が必要だと述べている。

このような趣旨から生まれた『コトバノオケイコ』は、現在の国語科書写の教科書としての側面をも持ちあわせている。本研究は、その書写教科書的側面を探るものである。

Ⅲ—2 国語科における個別化・個性化指導の方法

—読みの指導を中心として—

埼玉大学大学院 落合賢一

「個別化・個性化指導」について考えるとき、「一斉指導」との関わり、「基礎・基本」との関わり
の二点から見ていく必要がある。

この研究では、「個別化・個性化指導」と「一斉指導」は対立するものではないという立場から、代表的指導過程（単元学習・一読総合法・基本的指導過程・課題づくり学習）について「個別化・個性化」の視点によって見直した。すると、これらの指導過程がそれぞれ「個別化・個性化」という性質を十分に含んでいることがわかった。

「基礎・基本」と「個性」とは対立するものではなく、いろいろな場面で関わっており、「基礎・基本」の充実の上にこそ「個性化」の目的が果たされると思われる。

以上の二点について、具体的に実践例を通して考えていきたい。

Ⅲ—3 蘆田恵之助編纂『^{普通}国語讀本』の海外受容

—『大学生のための初等日本語』(Elementary Japanese
for University Students) の考察を通して—

兵庫教育大学 大塚 浩

蘆田恵之助は、大正 10 年 10 月 10 日 朝鮮総督府編修官として京城に赴任して以来、大正 13 年 4 月 18 日に職を辞するまでの二年半の間、『^{普通}国語讀本』巻一から巻八まで（朝鮮総督府発行）の編纂を担当していた。

蘆田恵之助編纂『^{普通}国語讀本』は、その後、昭和 16 年 5 月に Serge Elisséeff と Edwin O. Reischauer の手によって編まれた『大学生のための初等日本語』(Elementary Japanese for University Students) という形で海外に受容されている。Serge Elisséeff と Edwin O. Reischauer の共編による本書は、Harvard 大学の学生用日本語教科書として使用することを目的としたものであった。

本発表では、蘆田恵之助編纂『^{普通}国語讀本』の海外受容について、『大学生のための初等日本語』(Elementary Japanese for University Students) を通して考察を進めていきたい。